

2003 年度 委員会活動成果報告

(2003 年 3 月 29 日作成)

委員会名	耐震性能評価指針（英語版）作成小委員会	主 査 名：壁谷澤 寿海
所属本委員会 （所属運営委員会）	構造委員会 （鉄筋コンクリート構造運営委員会）	委員長名：西川 孝夫 主 査 名：林 静雄
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	2002 年度に脱稿予定の鉄筋コンクリート建物の耐震性能評価指針（案）の英語版（一部、「靱性保証型設計指針」（英語版未出版）の内容とりこんで作成する）を作成するとともに、日本語版の（案）をとった初版の制定に向けて、必要な修正作業を行う。	
委員構成 （委員名（所属））	市之瀬敏勝（名工大、幹事）、加藤大介（新潟大、幹事）、和泉信之（戸田建設） 岡野創（鹿島小堀研）、北山和宏（都立大）、衣笠秀行（東京理科大学）、倉本 洋 （豊橋技術科学大学）、境有紀（筑波大）、田中 仁史（京都大学）、津田和明（大 林）、寺岡勝（フジタ）、前田匡樹（東北大）、松森泰造（東大）	
設置 WG （WG 名：目的）		
2003 年度予算	500,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 （開催日・参加人数）	東京以外の委員も多数を占めるので、原稿作成、査読や修正、通常の意見交換などは電子メールを最大限に活用して活動しており、委員会は重要事項の審議などのみのために最小限の回数で開催することになっている。 5/20(11), 7/3(8), 11/10(9)、1/14(10), 1/23(9, 講習会), 1/30(5, 講習会)
得られた成果	（成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無） 前年度までの委員会の継続活動成果として、「鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価指針（案）・同解説」を出版し、東京と高松で講習会を実施した（参加者それぞれ、約 230 名、60 名）。今回の指針案では、これまでの日本建築学会の指針類で残された課題に関する検討や基準法改正を踏まえて、設計された建物の耐震性能を評価するための指針として発展的に制定することを試みた。結果として、(1) 耐震性能評価指標の提示、(2) 材料特性の考え方、(3) 地盤の応答増幅の簡易評価法を含む応答評価、(4) 部材の挙動（損傷度）にもとづく限界状態（限界変形角）の評価法、(5) 限界状態の超過確率の評価手法、などに関しては新たな評価法を提案している。具体的な評価手法に関しては、実用的評価手法として別途規定しているが、これらは基準法にもとづく「限界耐力計算」における応答値計算、限界値設定に対して詳細な評価手法、背景資料ともなりうる。また、同指針の英訳作業を開始し、英訳の基本方針および英訳用日本語版原稿の作成作業を終了した。現在、下訳作業中である。 委員会 HP アドレス：
目標の達成度	（当初の活動計画と得られた成果との関係） 前委員会構成時点の作業予定からはやや遅れているが、引継ぎ作業である指針出版作業が完了したことにより、日本語版に関して大きな目標は順調に達成された。また、同指針の主要な執筆者により構成された本小委員会としての活動も地道な英訳作業主体でサロン化することはなく、順調に作業を遂行しつつある。
その他評価すべき事項	目標は日本の最新の性能評価指針を英語で出版することであり、作業には委員の過大な負担を要するものであるが、成果は日本建築学会からの数少ない国際的な情報発信活動に貢献しうるものであり、十分に意義があると考えている。